

令和元年度 第3回 霧島市ふるさと創生有識者会議

開催日時	令和2年3月12日(木) 14:00~15:10		
開催場所	国分シビックセンター行政庁舎棟 別館 4階 中会議室		
出席者	有識者	山尾 和廣 委員長、福園 ゆかり 委員、永山 達也 委員、地頭 政 委員 大竹 孝明 委員、外山 浩己 委員、高山 美智子 委員、鶴ヶ野 未央 委員、 鮫嶋 沙綾香 委員、福原 平 委員、東 花行 委員 (全15委員中11人が出席)	
	事務局	有馬 企画部長、永山 企画政策課長、野崎 企画政策課長補佐兼行革推進G 長、森山 主幹兼企画政策G長、石塚 企画政策G主査、南上 企画政策G主 事	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0人
<p>会次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 霧島市ふるさと創生人口ビジョン改訂版(案)について資料1</p> <p>(2) 第2期霧島市ふるさと創生総合戦略(案)について資料2</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>			
<p>議事等の概要</p> <p>議事 ㊦：委員 ㊦：事務局</p> <p>(1) 霧島市ふるさと創生人口ビジョン改訂版(案)について</p> <p>→ 事務局から資料1、別紙1、別紙2に基づき説明。委員からの主な質疑、助言、提言等は次のとおり。</p> <p>㊦ 社人研の推計人口等では、非常に厳しい数字であり、人口増減数においても、2011年からプラスになっていない。様々な施策に取り組んでいることは評価できるが、人口は増加していない。このような状況で13万人を目標とするのは現実的ではないと考える。今後、目標を公表する際は、有識者会議において反対意見があったことも付すようお願いする。</p> <p>㊦ 2018年時点での社人研推計において、2060年の人口は推計されているか。</p> <p>㊦ 2018年時点の社人研推計は2045年までとなっている。</p>			

- Ⓔ 社人研推計における総合戦略策定当初と、2018年時点の最終的な推計人口は。
- Ⓢ 策定当初においては2040年で111,767人、2018年においては2045年で102,067人と推計されている。
- Ⓔ 2060年までの推計は事務局において2045年までの推計を基に算出しているのか。
- Ⓢ その通りである。

(2) 第2期霧島市ふるさと創生総合戦略(案)について

→ 事務局から資料2に基づき説明。委員からの主な質疑、助言、提言等は次のとおり。

- Ⓔ それぞれの取組がどのように人口増加に繋がっていくのかが分かりにくい
が、行政側は意識しながら取り組んでいるのか。
- Ⓢ 一つ一つの取組を見ると、人口増加との繋がりが伝わりづらい部分もあるか
もしれないが、複合的に取り組むことによって人口増加に繋がると考えてい
る。また、それぞれの取組を単独で行うのではなく、情報共有や連携を図るた
め庁内で協議を行っている。
- Ⓔ 人口増加に繋げるためには、市民の総合戦略や取組の成果に対する理解をさ
らに深めることが重要ではないか。
- Ⓢ 総合戦略については今年度中に策定予定であり、現在、策定後の周知方法を
検討しているところである。
- Ⓔ 第1期の戦略期間は、戦略の意義などについて認知してもらった重要な期間だ
ったと思うが、まだまだ戦略に対する認知度は低いのではないか。また、今回
「みんなができること」を追加しているが、抽象的であるため、より具体的に
参加できる部分を示すべきではないか。例えば、厚生労働省のくるみんマーク
等の取得を目標とすれば、より参画しやすくなるのではないか。
- Ⓔ 市民に人口等に対する危機感を持ってもらうため、戦略の中で良い点を伝え
るだけでなく、厳しい現状を伝えるべきではないか。
- Ⓔ 霧島市では市街地と中山間地域で二極化しているのが現状で、地域おこし協
力隊の導入は喜ばしいことであるが、竹子地区のみで終わるのではなく、他の
地域にも広がっていくことを期待している。

- ㊦ KPIの「妊娠・出産について満足している市民の割合」については、毎年把握できるアンケートなのか。
- ㊦ 健康増進課において毎年実施しているアンケートである。
- ㊦ 第2期の総合戦略は短期間の計画であるため、現段階で設定している取組の中から、集中的に取り組むものを設定すべきではないか。
- ㊦ 「みんなができること」を設定したことで、周知方法がより重要になってくるかと思うが、市民・組織・団体等がどのような取組をしているか調べ、活発な取組を行っている団体等について発表し、表彰するという方法もある。
- ㊦ 出生数を増やす上で、合併前は現在の総合支所に保健師がいて、気軽に相談ができる身近な存在であったが、合併後、保健師が集約されてからは事務手続きのような形になっていると感じている。相談したくても、ゆっくり相談する時間もない。現在は、待ち時間を減らす対策がされているようだが、霧島市全体で子育てしやすいまちにしたいのであれば、国分・隼人だけではなく、中山間地域でも定期的に保健師の相談日を設けることはできないか。
また、広報誌に掲載されている企業紹介はとても良いと感じているため、その中で子育てしやすい企業である等の情報を発信すればよいのではないか。
- ㊦ 現在、各総合支所において相談日を設けて、保健師が相談に応じているが、更なる周知を図っていきたい。
- ㊦ 市内就職を増やすためにはU・Iターンを増加させるのも一つの方法であり、霧島市の魅力を外部に発信することが大切だと考える。
- ㊦ 中山間地域には資源がたくさんあるのに、活用していない人が多いと感じる。市街地と中山間地域の相互の交流を促進するような取組を行って欲しい。

会議資料	<p>会次第</p> <p>資料1 霧島市ふるさと創生人口ビジョン改訂版（案）</p> <p>資料2 第2期霧島市ふるさと創生総合戦略（案）</p> <p>別紙1 霧島市ふるさと創生人口ビジョン・第2期霧島市ふるさと創生総合戦略について</p> <p>別紙2 霧島市人口ビジョン（推計データ）</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	別紙3 「霧島市ふるさと創生人口ビジョン改訂版（案）」及び「第2期霧島市ふるさと創生総合戦略（案）」に対するパブリックコメントの結果
--	--------------------------------------------------------------------